



研究課題名

中央アジア移民管理と多国間国際協力の 必要性に関する研究

富山大学

研究代表者：堀江 典生

研究期間：H19年度～H21年度

注目される旧ソ連地域の移民問題

- 世界第二位の移民大国ロシア、世界第15位の移民大国カザフスタン(2010年7月1日推定)
- GDPに占める海外送金依存が最も多い国:タジキスタン(45.5%)、キルギスタン(19.1%:11位)
- ソ連崩壊により生まれた新たな国境を越える中央アジア移民・出稼ぎ労働者

中央アジア移民の舞台としてのロシアおよびカザフスタン

❖なぜ中央アジア移民研究では、ロシアとカザフスタンにおいて調査し研究する必要があるのか？

中央アジア諸国からの移民たちの受け入れ先は、圧倒的にロシアおよびカザフスタンである。このことが本プロジェクト研究においてロシアおよびカザフスタンでの研究を重要視した理由である。

❖労働移民(出稼ぎ労働)問題こそがこの地域の移民問題の核心である。

定住目的の移民

帰還移民問題

オラルマン・・・現在進行形のカザフスタンの中心課題

エスニック・ロシア人・・・90年代ロシアの中心課題

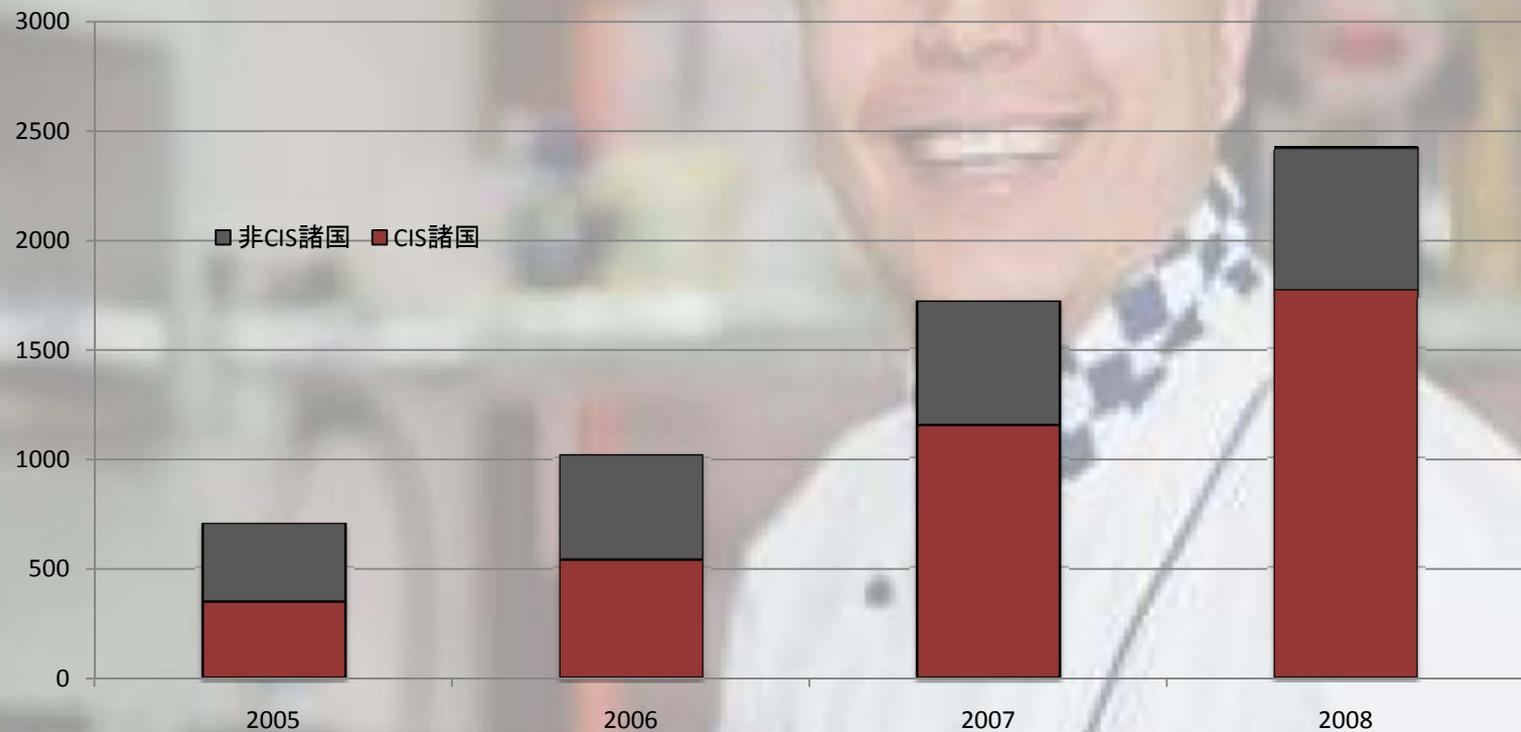
労働移民

カザフスタン・・・近年特に生起した問題

ロシア・・・構造的な問題(底辺労働市場を担う中央アジア移民)

ロシアへの出稼ぎ

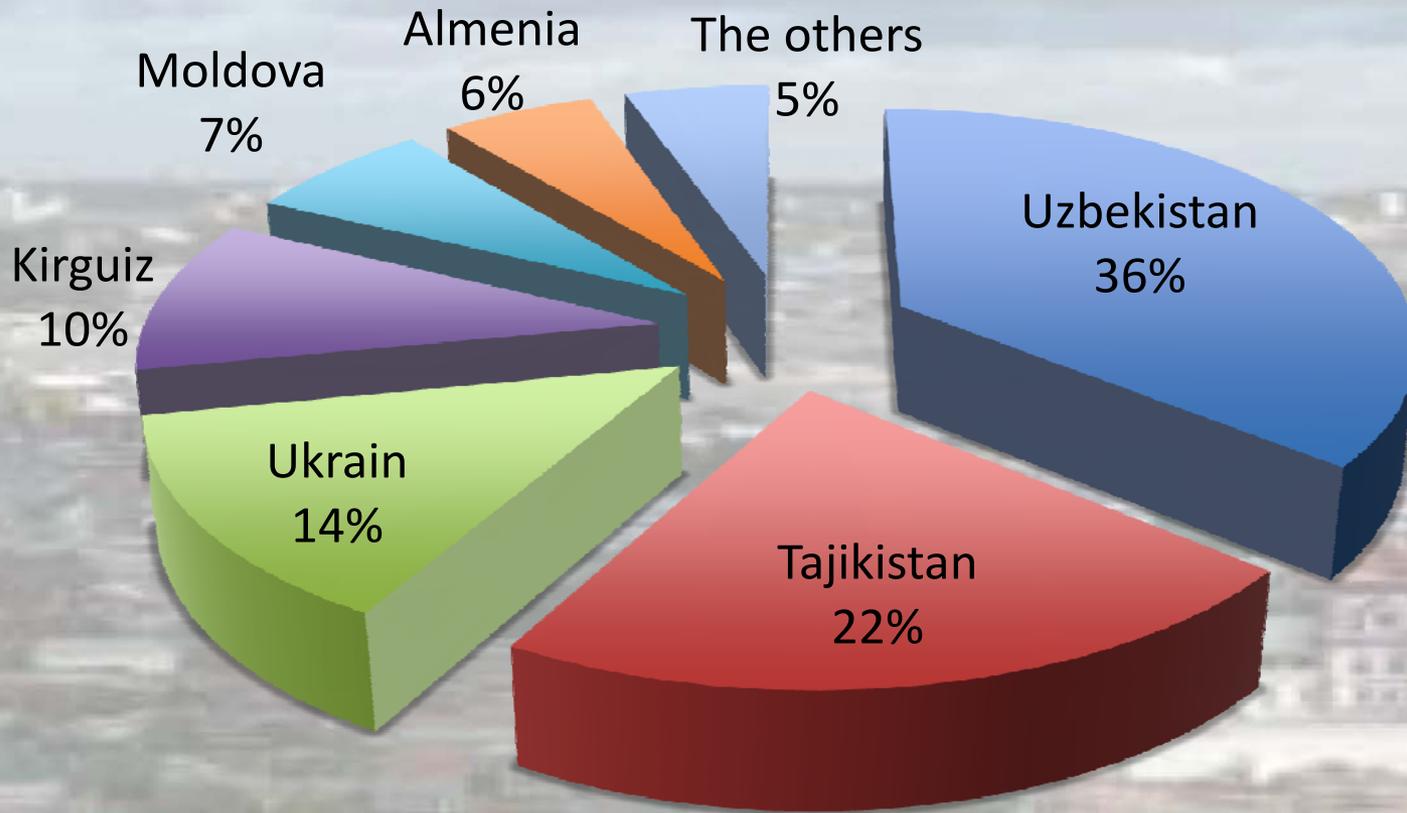
ロシアにおける正規外国人労働者数



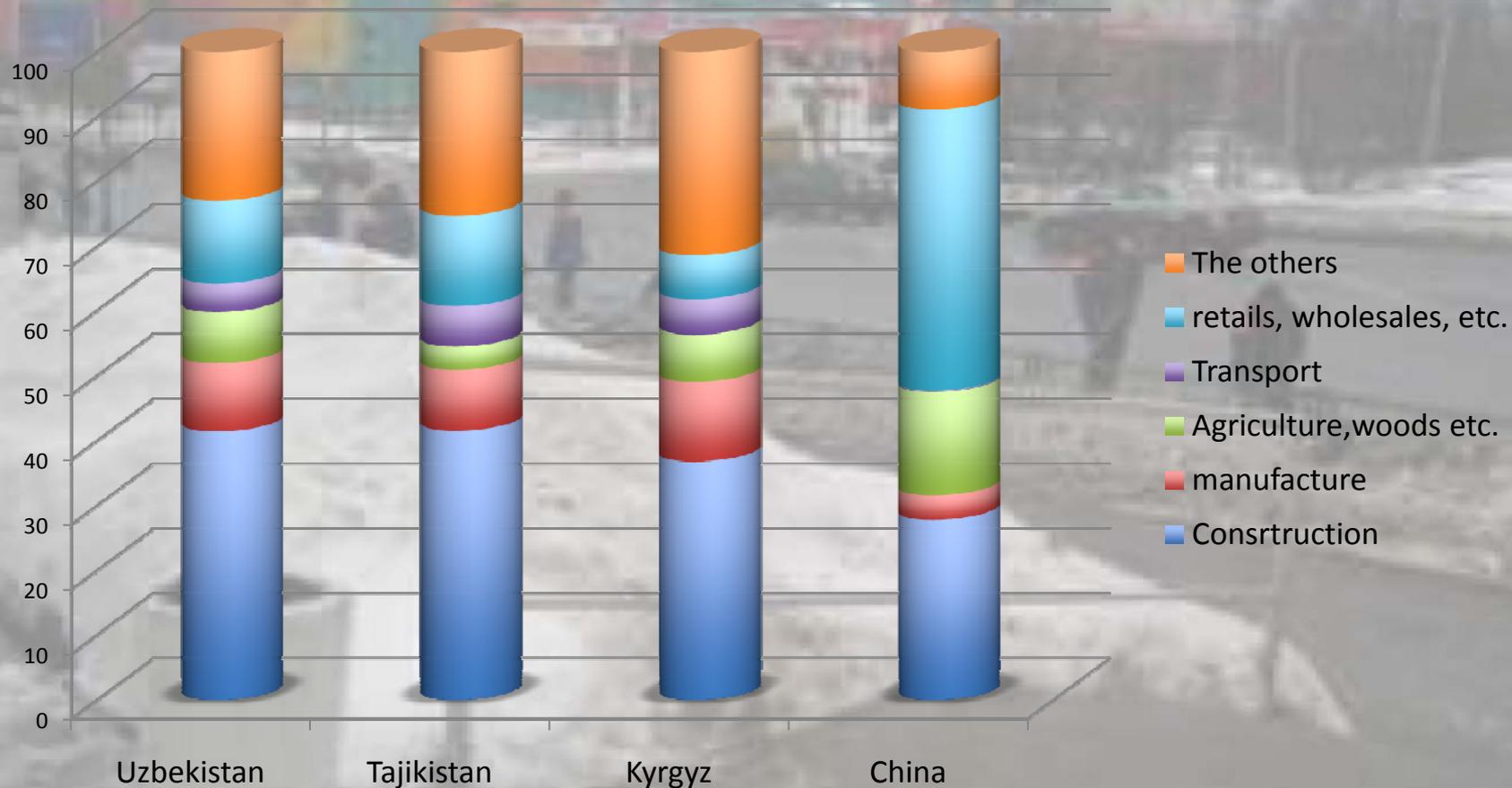
CIS諸国に労働力を依存するロシア

	正規外国人労働者数	CIS 諸国からの労働者数	非CIS 諸国からの労働者数	CIS諸国からの労働者数の比
2005	702,500	343,665	358,835	48.9%
2006	1,014,013	537,722	476,291	53.0%
2007	1,717,137	1,152,786	564,351	67.1%
2008	2,425,921	1,779,996	645,925	73.4%

ロシアで働くCIS諸国の外国人労働者の多くは中央アジアからの労働者



彼らが担うのは ロシアの底辺労働市場



Data from the FMS

モスクワでもそれは顕著

職業	モスクワ市		モスクワ州	
	割当数	%	割当数	%
全体	250.000	100,0	85.600	100,0
管理・技術系	82.812	33,1	4.310	5,0
事務・サービス系	7.161	2,9	1.153	1,4
ブルーカラー	160.027	64,0	80.137	93,6



中央アジアの出稼ぎ労働者たちの 仕事と職探し



分断された社会

- ロシアは社会的にも経済的にも市民と移民という二つの社会に分断された。
- ロシアは外国人排斥や外国人恐怖症を発露させやすい環境にある。

ロシア流外国人労働者管理

- ロシア社会で受け入れられやすいCIS諸国からの外国人労働者を国内底辺労働市場の労働力不足の補充にあてることを基本設計としている。
- そのため、質的管理が行われず、CIS諸国から無尽蔵に単純労働者の受入を行う傾向にある。(高度人材については2010年5月より受入簡素化)

ステレオタイプ形成途上の中央アジア人

- ロシア社会の中央アジア移民への態度：恐怖よりも忌避
- ロシア市民の認知度の低さ：「彼らも私たちと同じ人間だったんですね！」(ロシアの学生の声)

「超エスノフォビア」の発露の危険性

- 散発的に発生するロシア市民と中央アジア移民たちの衝突
- 超エスノフォビアは政府によって抑えられているが、常に発露する危険性を持っている。

中央アジア移民達の実像に迫る

- モスクワ在住の20名の中央アジア移民・出稼ぎ労働者に対する質的調査(ライフヒストリーインタビュー)
- 11名のタジク人、6名のウズベク人、3名のキルギス人、3名の二重国籍取得者

出稼ぎの決断・国境越え・モスクワでの仕事・外国人としての諸手続・住環境・日常生活・ゼノフォビア・仕送り・里帰りといった一連の生活を振り返り、出稼ぎ労働者たちの言葉で語る。

彼らが安心して働き、住むことができるために必要な受入体制にどのように彼らの声を反映させることができるか？



移民の声

- 警察や官吏のたかり
- 制度的障壁を解決し、不確実性を解消する仲介人の役割(国境、外国人登録、労働許可)
- 合法か不法かわからないところで暮らす移民

中央アジアからの外国人労働者が 不法移民化する契機

- ビザなし渡航: ビザなしでロシアに渡航でき、ロシアに入国後に仕事探しができる。
- 労働許可: 外国人労働者本人の申請であるため、雇用者は取得に熱心でない。個人で取得するには面倒な手続きである。
- 仲介者: 仲介者の手続きが合法化どうかわからない
- 雇用者: 労働契約に基づかない就労

規制の役割を果たしていない労働許可割当

Year	2003	2004	2005	2006	2007	2008
割当数	530.000	213.000	214.000	329.300	6.308.842	1.828.245
非ビザ免除国	-	-	-	-	308.842	672.304
ビザ免除国	-	-	-	-	6.000.000	1.155.941
労働許可発行数	210.486	248.768	225.799	267.200	1.193.959	3.500.000
割当充足率	39,7	116,8	105,5	81,1	18,9	191,4

中央アジアの人身売買問題

❖研究が進んでいるはずのロシアにおいても、たとえば人身売買や被害者に対する住民の態度について十分なサーベイデータがない。

エカテリーナ・バディコヴァ(中央アジア人身売買撲滅NGO協会代表)

❖NGOの協力団体が検討した中央アジアの5カ国の事例

❖犠牲者の声、人身売買業者の声をもとに明らかにしている非常にユニークな研究成果



この成果は、中央アジア人身売買に関して世界が取り組むべき課題が依然として多く、支援を広げていく必要があることを強く示唆している。

移民受入新興国としてのカザフスタン

❖「過去から引き継いだ“歪み”」の是正と移民政策形成が課題

ボラート・タチベコフ

「2007-2015年までのカザフスタン共和国移民政策の基本コンセプト」

★カザフスタン移民政策の主要問題

オラルマンと労働移民の受け入れと管理のあり方

オラルマンのカザフスタンにおける適応の問題

★移民をカザフスタンの経済発展の加速に組み込む

アレクサンドル・アレクセンコ

政府が率先して行うオラルマンの大量流入はカザフスタンの社会的リスクを増大させ、政治的意図をもったオラルマンの定住地配分(ロシア系住民が多数派の地域へのオラルマンの定住先誘致)があからさまな国内人口移動の管理につながっている危険性を指摘

カザフスタンの移民政策が、ロシアと異なる移民政策の形成に乗り出す可能性をもつと同時に、過去から引き継ぐ歪みへの対応に迫られる状況



中央アジアにおける移民と「人間社会の安全保障」

ソ連空間にできあがった境界＝国境によるシティズンシップの構築（共和国ごとのアイデンティティの再構築）

ロシアと中央アジアとの移民空間としての一体感



国家安全保障と「人間社会の安全保障」



☆ロシアを中心とした旧宗主国中心の移民管理ではなく、ロシアとは異なる移民制度の構築により、国家としてのシティズンシップ形成が促される可能性がある。

☆国家と人間社会の境界をめぐる安全保障の葛藤が、地域の不安定要因になる可能性がある。

☆国家レベルもしくは地域レベルでの移民管理の制度化が、移民の動向と地域秩序に与える影響を注視すべきである。

私たちのプロジェクトから導き出すことのできる結論

①ゼノフォビアの生起・蔓延は、中央アジア移民の人間の安全保障に対する脅威である。当該受入国との協力により、ゼノフォビア対策に関する国際協調と当該国での移民の権利を守る意識の向上が必要である。

②中央アジア労働移民受入国における移民管理に関わる諸手続を明瞭化し、移民個人が対処可能な手続きにすることが望ましい。

そのためにも、移民が直面する諸手続きにおける実際上の諸困難について移民受入国と送出国双方で把握し、現実的な解決を模索する必要がある。

③中央アジアにおける人身売買の問題は、国際社会の取り組むべき課題である。

人身売買が発生している中央アジアだけでなく、第三国である我が国においても国民の認識向上を図るとともに、この問題の解決を中央アジアの平和と繁栄を支えるための我が国の中央アジアへの人道的関与と認識すべきである。

④中央アジア移民送出国における雇用機会の創出が重要な課題である。

中央アジアから発生する移民は経済移民が支配的であり、そのなかでもロシアおよびカザフスタンへの出稼ぎ労働を特徴とする。その移民動機は、中央アジア移民送出国における雇用機会の欠如である。

⑤中央アジア移民管理は、国家レベルでの移民管理を超えて、地域レベルでの移民管理のあり方を模索していく必要がある。

中央アジアおよびロシアにおける移民問題が、国家と社会との境界が合致していないがために、国家安全保障と「人間の安全保障」に投げかけるジレンマが、当該地域の移民問題解決のための地域協力や国際協力を阻害している。

研究成果の社会への還元方法

1. 国際シンポジウム

2009年9月13～14日(富山国際会議場)

2. 出版物刊行

『現代中央アジア・ロシア移民論』(ミネルヴァ書房)

3. 論文・論説の公表

日本及び現地の実務家への働きかけ

本プロジェクト研究において、研究者以外に対する本プロジェクト研究を通じた働きかけについては、これまで以下のような試みを行ってきました。

(日本)

- ロシアNIS貿易会発行「ロシアNIS調査月報」等を通じた実業界への中央アジア移民問題の啓発



(現地)

- 国際労働機関および国際移住機関におけるプロジェクト・プレゼンテーション
- 国際労働機関を通じて研究成果を公表し、現地政府、NGO、実務家への研究成果の還元が行えるように企画
- タジキスタンにおける国際シンポジウムの企画運営、研究成果公表により現地実務家を含む利害関係者への成果還元
- ロシア連邦移民局への研究成果還元